

TOKYO OLYMPICS

in Architectural Documents
from the 1964 Yoyogi National Stadium
to the 2020 New National Stadium

写真：株式会社大林組

1964
2020

国立近現代建築資料館 開館記念特別企画展示

建築資料にみる東京オリンピック

1964年国立代々木競技場から2020年新国立競技場へ

2013.5.8[水]–6.14[金] 開館時間：9:30–16:30
会期中無休

入場方法：

〔特別展示のみ観覧〕（平日のみ利用可能）事前申込みの上、湯島地方合同庁舎正門よりご入館できます。申込詳細はHPをご覧ください。入館無料。

〔都立旧岩崎邸庭園と同時観覧〕（会期中は無休）都立旧岩崎邸庭園からもご入館できます。事前申込みは不要です。旧岩崎邸庭園の入園料（一般）400円が必要です。

主催：文化庁 協力：公益財団法人 東京都公園協会 会場：文化庁 国立近現代建築資料館

〒113-0034 東京都文京区湯島 4-6-15 Tel. 03-3812-3401 Fax. 03-3812-3407

http://www.bunka.go.jp/bijutsukan_hakubutsukan/shiryokan/index.html

National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs

4-6-15 Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0034, Japan

文化庁

国立近現代建築資料館

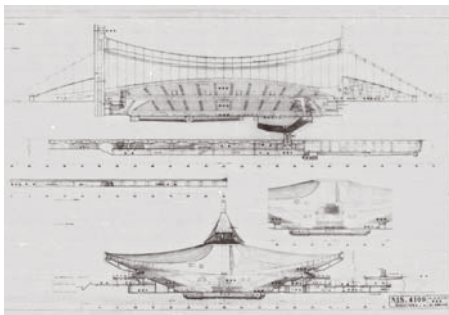
National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs

建築資料にみる東京オリンピック

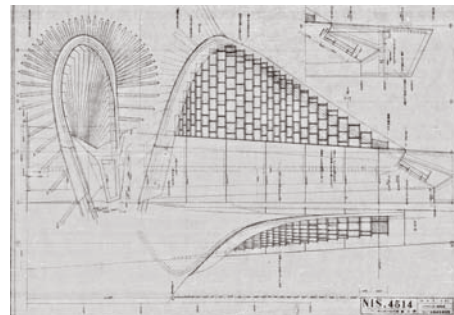
1964年国立代々木競技場から2020年新国立競技場へ

第1部 1964 国立代々木競技場 1964 Yoyogi National Stadium

国立代々木競技場について、設計図、文書などから全体像を概観します。とりわけ、設計を統括した丹下健三による資料に焦点をあて、アーカイブの状況を含め、関係資料を広範囲に紹介します。



第一体育館 断面図[マイクロフィルム]
(所蔵:丹下都市建築設計)



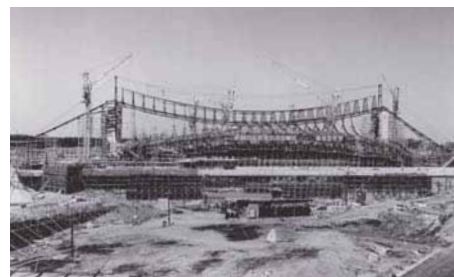
第二体育館 トップライト廻り詳細図[マイクロフィルム]
(所蔵:丹下都市建築設計)

第2部 意匠と技術 丹下健三・坪井善勝・井上宇市、競技場建設を担った3人の技師 Design and Engineering: Kenzo Tange, Yoshikatsu Tsuboi and Uichi Inoue

国立代々木競技場の建設を担った人物(丹下健三、坪井善勝、井上宇市)及び組織(建設省、清水建設、大林組)に着目し、その意匠における芸術性、構造・設備における機能美と先端性を多様な建築資料から見いだします。



第一体育館メインロープ円錐面回転サドル模型
(所蔵:株式会社 川口衛構造設計事務所)



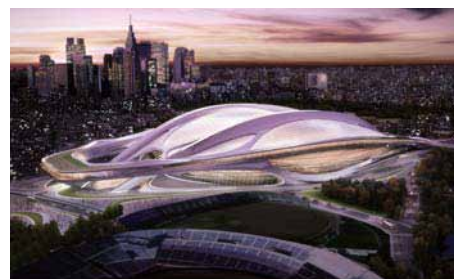
第一体育館 建設過程写真
(所蔵:清水建設株式会社)

第3部 2020 新国立競技場 2020 New National Stadium

これまでの競技場施設の建設で培われてきた空間性、技術力が進化し、新たな競技場が誕生しようとしています。2012年に開催されたデザイン競技応募作品をこれからの建築資料として、積極的な活用を試みます。



新国立競技場国際デザインコンクール最優秀賞案 内観
(提供:独立行政法人日本スポーツ振興センター/設計:ザハ・ハディド・アーキテクト)



新国立競技場国際デザインコンクール最優秀賞案 外観
(提供:独立行政法人日本スポーツ振興センター/設計:ザハ・ハディド・アーキテクト)

開館記念特別展示に際して

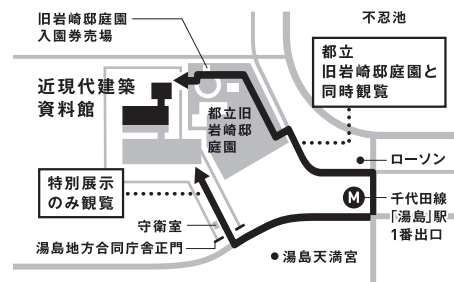
1964年に開催された東京オリンピックは、戦後日本の復興を象徴する歴史的な大事業であった。その舞台となった競技場施設は、未来へと向かう国家と国民の意思表示として、当時可能な技術の粋を尽くしてつくられたものだった。中でも、丹下健三設計の、国立代々木競技場は衝撃だった。先駆的な吊り屋根構造により、伝統と近代の融合を表現、モダニズムの新たな地平を切り開いた。ここにおいて、日本の近代建築の存在が、世界に示された。そして今日、東京は二度目のオリンピック招致に向けて動き出している。メイン会場となる新国立競技場建設にあたっては、希望に満ちた新しい時代の象徴とすべく国際的な設計競技が催され、激戦の末に建築家ザハ・ハディドが勝ち残った。現代建築の一つの未来を暗示する、力強い建築が提案されている。

国立代々木競技場と新国立競技場。半世紀をまたぎ、日本の未来のために構想された、この新旧二つの「国家プロジェクト」が開館記念特別展示として紹介される。訪れる人に、建築という文化の豊かさと、未来への希望を感じ取ってもらえればと思う。

名誉館長 安藤忠雄

会場: 国立近現代建築資料館

〒113-0034 東京都文京区湯島4-6-15 Tel. 03-3812-3401 Fax. 03-3812-3407
http://www.bunka.go.jp/bijutsukan_hakubutsukan/shiryokan/index.html
National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs
4-6-15 Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0034, Japan



アクセス:
千代田線「湯島」下車 徒歩3分/銀座線「上野広小路」下車 徒歩10分/
大江戸線「上野御徒町」下車 徒歩10分 山手線「御徒町」下車 徒歩15分

文化庁

国立近現代建築資料館
National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs